

第1回各ワーキンググループの議論のポイント

自動運転支援道WG

- ✓ 高速道路上の自動運転支援道は、物流システムの改革の実践の場と捉えるべき。
- ✓ インフラ協調は自動運転にとって重要である。あわせて先読み情報や信号情報は自動運転以外の車両にも活用できるようにすべき。
- ✓ 高速道路上の自動運転支援道について、一部区間に限定せず全国に展開していくことを期待。
- ✓ 一般道の自動運転実装として企業城下町のように一定の移動ニーズが見込める地域が適している。具体的には茨城県日立市が候補。
- ✓ 早期にまとまった数の自動運転車を供給してもらいたい。

アーキテクチャWG

- ✓ モビリティハブの整備を民間に任せると地域で濃淡が出てしまうため、政策的な整備を検討してほしい。
- ✓ 計算リソース・通信回線等は、将来の需要拡大を先読みして整備することが必要。
- ✓ デジタルライフラインを整備する際には、全国共通化によって、地方格差を縮小する必要がある。
- ✓ 公益デジタルプラットフォーマーを活用する上では、国によるベーシックインフラサービスのように提供することも一案。

ドローン航路WG

- ✓ ドローン航路を利用することで、航空局の審査を簡素化・迅速化できるような仕組みが必要。
- ✓ 電波不感地帯の多い過疎・中山間地域においては、安定した通信環境の確保が必須。
- ✓ ドローンの離着陸・整備等のためのモビリティ・ハブ及びドローンポートの戦略的な設置が必要。

インフラ管理DX WG

- ✓ 横展開しやすい規模の政令指定都市としてさいたま市や八王子市が候補。
- ✓ インフラ事業者間の連携の適切な在り方（JV設立等）も要検討。
- ✓ 持続的に維持管理するためには空間位置情報基盤を共通化することが重要。
- ✓ 設備データは非常に機微な情報であり、多段構造になっているのでデータ主権の確保が重要。

スタートアップWG

- ✓ 各社の競争領域に立ち入るような協調領域の設定が必要。
- ✓ 大企業には、プロトタイプへの人員・技術提供、大規模なデータ連携基盤の整備や長期的目線の投資を期待。
- ✓ 国には、ステークホルダーを横断する調整、知的財産面での支援、地域コミュニティの形成への積極的な参入などを期待。
- ✓ アジャイル開発のためには、エンジニアに向けたシミュレーション環境の提供や、失敗した際にモメンタムに影響を与えないようなレピュテーションリスクを低減する枠組み整備が必要。